

川口市立医療センター広報紙

はな みず き
花水木

特集

2019.9.1 Vol. **39**

ピンクリボン月間



川口市立医療センター
イメージキャラクター 「みみたーず」
“よく聴き・よく診て・よく説明する”

基本理念

市民に信頼され、
安全で質の高い医療を提供します

「糖尿病チーム」で患者サポート



「糖尿病」は、身体の中で血糖を下げることのできる唯一のホルモンである“インスリン”がうまく作用しないことにより、血液中のブドウ糖濃度が上昇してしまう病気です。一般的には、インスリンそのものが枯渇してしまう「1型」と、インスリンの効きが悪く(インスリン抵抗性)なる「2型」とに分類されます。

インスリンは全身の細胞に栄養であるブドウ糖を送り込む「鍵」なので、インスリンが作用せず血糖が高いということは、身体に栄養がたくさんあるのではなく、むしろ身体に充分栄養が行き届いていないことになります。

1型糖尿病は、インスリンを注射で補っていくことが主だった治療方法ですが、2型糖尿病は生活習慣(食事管理、運動など)の是正によるインスリン抵抗性の解消が中心になります。

そのため、特に2型糖尿病の治療においては、私達「医師」がどうするのかではなく、あくまで「患者さん」が、いかに自らの生活習慣を良い方向へ持っていくことができるかが重要です。薬物だけで治療することは困難であり、患者さん自身の力が必要…つまり糖尿病の治療は「医師中心」ではなく「患者さん中心」なのです。

糖尿病内分泌内科では、医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師などの多職種が集まり「糖尿病チーム」を形成しています。そしてチームとして患者さんの診療に携わり、薬物治療はもちろん、自らの生活習慣を見直していこうとする患者さんの取り組みに寄り添えるサポートを心がけています。

また、糖尿病チームでは、年3回の糖尿病講座のほか、市民公開講座も年1回行っています。皆さんもぜひご参加ください。



ピンクリボン月間

～乳がん検診で早期発見を～

10月はピンクリボン月間です。乳がんで悲しむ人を減らすことを目的に、乳がん早期発見の啓発キャンペーンとして、乳がん検診を呼びかけています。

自治体検診と任意型検診

皆さんは、乳がん検診を受けたことはありますか？

実は検診にもいろいろと種類があります。大きく分けると「自治体検診」と「任意型検診」です。自治体検診は、市からお知らせが来て指定された医療機関に申し込みをすると、マンモグラフィという乳房のレントゲン検査を受けることができます。通常は2年に1回で、自治体から補助が出ているため料金的にも安価で、1,000円程度です。

さて、マンモグラフィはどれほどの効果があるのでしょうか？ 非常に早期の状態で乳がんを見つけることができますが、早期でない乳がんを見落とししてしまうこともあるのです。「高濃度乳房」をご存知ですか？ マンモグラフィでは乳腺は白く、脂肪は黒くうつります。しこりも白くうつるため、乳腺の密度が高く全体的に白っぽく見える乳房の場合、しこりが隠れてしまうのが問題です。このような乳房を高濃度乳房と呼びます。高濃度乳房は病気ではありませんが、しこりがわかりづらく、超音波検査が有効ともいわれています。

では、超音波検査はどこで受けられるのでしょうか？ 現在は、川口市の検診には含まれていないため、個々に検診機関で行なっていただくことになります。このような検診を任意型検診といいます。多くは自費ですが、その方法や提供体制はさまざまです。医療機関や検診機関が行う人間ドックは、勤務先で料金の補助をしてくれる場合もあります。任意型検診で乳がん検診を行う場合は、超音波検査のみの場合や、自分でコースを選べる場合があります。

検診機関と精査機関の役割

「病院の乳腺外科では検診はできないのか？」という疑問を持つ方もいることでしょう。症状がないかたは検診で、検診の結果が「要精査」のかたは病院で精密検査、と考えていただきたいと思います。

川口市の人口は約60万人、女性はその半分の30万人、通常検診の対象となる40～74歳は13万4千人、自治体検診の受診率を28%とすると、受診者総数は3万7千人となります。要精査となる率は6%（平成25年度埼玉県データ）とされていますので、病院を受診されるのはそのうちの2,200人であったと考えられます。

高濃度乳房のかたが50%以上と考えると、単純計算で検診受診者の約半数1万8千人となります。もし、このかたが全員が病院を受診するとなると、年間2,200人が一気に1万8千人となり、本当に乳がんであるかたが受診できなくなる恐れがあります。検診機関と精査機関の役割をご理解いただき、適正な受診にご協力ください。

もちろん、毎回検診で要精査になるかたの不安も解消しないといけませんし、実際に隠れてしまっているがんがあるとすれば、由々しきことです。このようなかたには、連携できる乳腺クリニックをご紹介します。検診で要精査のかたや、紹介状をお持ちのかたは、当院で精密検査を行い、納得のいくまで結果のご説明をします。がんが見つかった場合は、多職種チームで適切な治療をします。それこそが、地域がん拠点病院である当センターの使命であると考えています。

【ピンクリボンバッジ】



乳がんで苦しむかたを減らしたいと願いを込めて、当センターオリジナルのピンクリボンバッジを作りました。病院一丸となって取り組む証としています。

（バッジに記載のKMMCとは、川口市立医療センター：Kawaguchi Municipal Medical Centerのことです）

活躍！ 病院ボランティア

当センターでは、平成6年から病院ボランティアのみなさんに院内のさまざまな場面で支援をいただいています。現在35人のかたが登録、毎日生き生きとボランティア活動をしています。

正面玄関では、患者さんの案内や再来機等の操作説明、車椅子の移送介助など。病棟では、赤ちゃんの沐浴の手伝いや、患者さんの話し相手など。季節行事の際は、飾り付けの協力もしています。



また、七夕とクリスマスの時期に行う院内コンサートの演奏やコーラスはもちろん、出演する看護師や職員へ本格的な歌唱指導をするのも音楽ボランティアのかたです。ときにはロビーでピアノ演奏も行います。

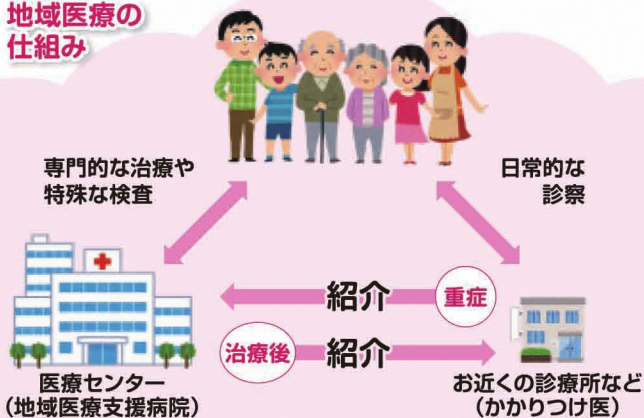
「人のために何かをしたい」という強い思いを持って集まったみなさん。年に一度行われる職員との会議では、ボランティアならではの目線で気づいたことなど活発な意見交換が行われます。先日の会議では、活動時間が1,500時間に達したかたを表彰。今後のさらなる活躍をお互いに約束しあっていました。

病院ボランティアにご興味のあるかた、頼もしい先輩たちと一緒に活動してみませんか？

問い合わせ：病院総務課



地域医療の 仕組み



バス案内 (国際興業バス)

川口駅東口(8番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

西川口駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

蕨駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

赤羽駅東口(6番)発

新井宿駅経由 川口市立医療センター行

循環バス (川口市コミュニティバス)

みんななかまバス

埼玉高速鉄道をご利用の方は

埼玉高速鉄道 新井宿駅から徒歩10分

駐車場のご案内

駐車料金 4時間まで200円(その後1時間ごとに100円)

総合受付の「5」会計受付にてパーキングカードを販売しております。
(1,000円券・3,000円券)

駐車台数 約600台収容

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦
編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180 ☎048-287-2525(代表)



ホームページ